

# FUSO

magazine

NO.77  
2022 03/04  
Mar.Apr.



[ 開発秘話 ]

## eCanterから始まる カーボンニュートラルへの取り組み

[ FUSOマニア ]

eCanterを体験できる  
カスタマーエクスペリエンスセンター

[ eCanterが行く ]

クリーンなエネルギーや  
歴史ある城と出会う



## CONTENTS

- 3 Our Philosophy | 私たちの哲学  
株式会社ヒカリホールディングス
- 6 キャビンからの風景  
ドライバーのオアシス10選
- 10 [開発秘話]  
eCanterから始まる  
カーボンニュートラルへの取り組み
- 12 FUSOマニア  
eCanterを体験できる  
カスタマーエクスペリエンスセンター
- 14 トレンドウォッチ  
置き配は定着するのか
- 15 長期使用車両の  
灯火装置の点検について
- 16 eCanterが行く  
クリーンなエネルギーや  
歴史ある城と出会う
- 17 FUSOインフォメーション
- 18 Good for 遊 きょうは何の日
- 19 Coffee Break & プレゼント



**FUSO**  
magazine

NO.77 | 2022 03/04 Mar.Apr.

表紙Photo : SUPER GREAT

©FUSO magazine 本誌掲載の  
記事、写真、イラスト等の無断複写、  
転載を禁じます。



「出会いと和」を大切に50年。提案型物流会社として

物流業界の発展を牽引するリーディングカンパニーを目指す



# OUR PHILOSOPHY

— 私たちの哲学 —

## 株式会社ヒカリホールディングス

岡山県

代表取締役会長 **長田 義光**

2022年、創業50周年を迎えるヒカリグループ。

傘下の主力企業であるヒカリ産業(株)は、一般食品輸送(常温・チルド・冷凍)、一般貨物輸送、3温度帯完備の在庫・通過型物流センターの運営を手掛け、日本全国を網羅する物流事業を展開している。

M&Aによる事業拡大とともに地元活性化・社会貢献活動にも積極的に取り組む長田義光会長に、創業50年を迎えての想いと今後の展望を聞いた。

## OUR PHILOSOPHY

株式会社ヒカリ  
ホールディングス

岡山県



### 三菱ふそうと共に開発した 保冷トラックが業務拡大に貢献

創業50周年、おめでとうございます。

まずは、これまでの歩みを教えてください。

1972年、23歳のときに妻と2人で始めた乳製品の宅配業が、弊社の原点です。

当時は高度成長期で、岡山にも郊外型の量販店やスーパーが続々と参入し、配送の需要が急増。私たちも、その波に乗る形で業務を拡大していき、78年にヒカリ産業株式会社を設立しました。創業間もない時期に弊社の事業を大いにサポートしてくれたのが、岡山三菱ふそうさんと一緒に作った冷蔵ト



ラックです。当時、冷蔵機能のついたトラックは一般に普及しておらず、水で冷やす保冷車がメインでしたが、保冷機能が不十分だった上に、非常に乗り降りしづらい構造でした。そこで当時の岡山三菱ふそうの担当者(現・岡山三菱ふそう社長)に相談して、キャンターをベースに、冷蔵機能付きで使い勝手の良いオリジナルの冷蔵トラックを開発したのです。これをフル活用して冷蔵商品の配送を手掛けたことが、その後の事業拡大に繋がっていきました。

### 提案型物流でお客様に 寄り添うサービスを提供

現在の業務内容と、  
御社の強みについて教えてください。

2018年にグループ会社を統合して株式会社ヒカリホールディングスを設立。総合物流業(ヒカリ産業株式会社、株式会社フレッシュ物流、株式会社ハップ)と自動車販売機総合管理業(ヒカリエンタープライズ株式会社)の2業種を柱に、事業を展開しています。2004年10月に冷凍・冷蔵・ドライの三温度帯に対応する「ヒカリグループ物流センター」を開設したのを機に、総合物流企業に進化を遂げ、物流に係るあらゆる業務を一貫サポートできる体



創業直後に活躍したオリジナルの冷蔵トラック

制を整えています。弊社の強みは、柔軟な提案力です。コストの削減だけでなく、安全性・効率性を実現する最適な物流システムをオーダーメイドでご提案するとともに、稼働後も物流パートナーとして誠心誠意のサービスを提供することを得意としています。お客様のビジネスに不可欠な存在であり続けることが、目標でもあり、事業拡大を支える原動力でもあります。



岡山三菱ふそう  
自動車販売株式会社  
岡山エリアを担当。  
〒703-8227 岡山県岡山市中区  
兼基27番地の1  
TEL.086-279-0881(代)



## SDGsの活動を通じて、 地元可愛される企業を目指す

20年以上前から途上国支援や地元・岡山の文化スポーツ振興など社会貢献活動に力を入れていきます。背景にはどのような思いがあるのでしょうか？

事業で得た収益を社会に還元するのは、企業として当然の責任であると考え、さまざまな活動を行ってきました。2002年にはNPO法人AWPSを立ち上げ、グループのヒカリエンタープライズ株式会社が管理する「チャリティ自動販売機」の売り上げの一部を、フィリピンのストリートチルドレンの学費として寄附する取り組みを続けています。SDGsが注目される前から活動を開始し、今年で21年目を迎える

ます。現在は学生ボランティアチーム（SST）も加わり、「チャリティ自動販売機」以外の活動も行ってきているので、今後も継続して支援していきたいです。また、

地元の皆様に愛される企業であることを目指して、各種イベントへの協賛や文化・スポーツ振興の支援も続けていて、結果的に地元での優秀な人材の確保に繋がっています。さらに、地球環境への配慮として、車両はエコタイヤや再生タイヤを使用、一部の事業所では、屋上に太陽光発電を設置、照明をLED化する取り組みも行っています。今後、車両については、電気自動車への切り替えも視野に入れていますが、まだ長距離輸送においては技術的に導入が難しいため、当面は燃費の良い車種への切り替えを進めており、2022年には燃費の良さで定評のある三菱ふそうの車両を新たに3台導入することとしています。

## いつの時代も今がチャンス！ さらなる事業拡大を目指す

最後に、今後の展望をお聞かせください。

これまでの50年を振り返ると、弊社の成長は常に「出会いと和」に支えられてきました。今後、一つ一つの出会いを大切に、お客様との「和」、社員同士の「和」を重んじる精神を忘れず、事業拡大に取り組みしていきたいと考えています。

具体的な目標は、グループ全体で「年商150億円、従業員数1500人」の達成です。そのためにも、主力事業である物流事業にさらに注力すると同時に、M&Aによる経営の多角化を推進し、人材と組織の育成に努めてまいります。長引くコロナ禍で先行きが不透明な時代といわれていますが、経営理念にも掲げている「いつの時代も今がチャンス」を念頭に置き、チャンスを見逃すことなく、挑戦を続け、物流産業のさらなる発展に寄与していきたいと考えています。特に注力したいのは環境問題への配慮です。世界的に意識が高まる中、環境に配慮しつつ、安全で迅速な物流を実現するには何が必要なのか。三菱ふそうさんをはじめ、パートナー企業の皆様と知恵を出し合い、新しい時代にふさわしい物流企業のロールモデルとなるべく、邁進してまいります。

### COMPANY DATA



#### 株式会社ヒカリホールディングス

岡山市北区柳町1-4-8  
代表取締役会長 長田義光

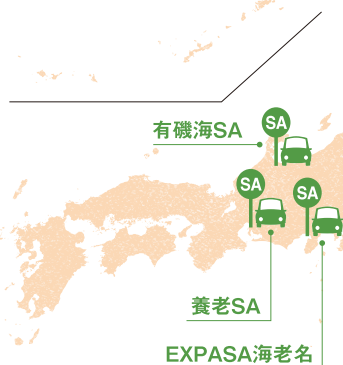
#### ヒカリ産業株式会社

岡山市東区西大寺浜460  
取締役社長：長田和明

ヒカリグループ  
創業：昭和47年  
従業員数：1104名  
保有車両台数：284台



## キャビンからの風景



# ドライバーの オアシス 10選

魅力を増すサービスエリア(SA)やパーキングエリア(PA)は、最近ではドライブのついでに立ち寄るだけでなく、SAやPAに立ち寄ることが目的で高速道路を利用する人も多くなっているようです。北海道から沖縄までのドライバーに人気のスポットを紹介します。

※情報は2022年1月時点。最新情報はホームページ等でご確認ください。



海老名周辺は見どころがたくさん。EXPASA海老名には小田原吉匠「鱈の唐揚げ」も。

## TOPICS

EXPASA海老名で人気を集めているのが「ぼるとがる」のメロンパンです。2018年に48時間で約2万7500個を売り上げネス世界記録に認定され、メディアでもたびたび紹介されているのでご存じの方も多いのでは。



## EXPASA海老名

【東名高速・下り】

日本で最大級のサービスエリアがEXPASA海老名です。EXPASA(エクスパーサ)は、NEXCO中日本が高速道路で展開する商業施設名で、海老名や談合坂(山梨県)など現在では8か所で展開中です。EXPASA海老名は東名高速道路で最も東京寄りにあるサービスエリアで、396席もある巨大なフードコートで絶品グルメを味わいながら、夜には天井に投影されるプロジェクションマッピングで四季の風景や花火などを楽しむことができます。フードコートをはさみ東西にあるショッピングセンターのうち、西側にあるショッピングコーナーが「SASTAR1」。高速道路に初出品する話題の商品も多く人気を集めています。

巨大フードコート

絶品グルメを味わう



人気の醤油ラーメン  
素晴らしい景観と



## 岩手山SA

【東北自動車道・上り】

八幡平の山並みと、南部片富士と呼ばれる岩手山を真正面に見ることができる、景観のすばらしいSA。写真の焼走りラーメンは、国の特別天然記念物に指定されている“焼走り熔岩流”を黒ばら海苔で表現した、人気No.1の醤油ラーメンです。\*写真提供はいずれもNEXCO東日本



このSA限定発売の「もちっとりんご」はリンゴピューレが練りこまれた生地とカスタードクリームのコンビネーションが人気。



## 砂川SA

【道央自動車道・下り】

砂川SAは日本最北端のSA。道北、道東方面のビジネスの中継点で、全国的な人気を誇る旭山動物園や宗谷岬などを目指す観光客も数多く訪れます。おとぎの国を思わせる三角屋根の隣にある地元・砂川で放牧飼育している岩瀬牧場のソフトクリームが旅の疲れを癒してくれます。



最北端のSAで  
地元のグルメを堪能

砂川市のご当地グルメ「ポークチャップ」はここ砂川SAでも人気No.1メニュー。ソテーした豚肉は砂川市の上原ファーム産です。



ひつまぶしをブランド牛  
飛騨牛で味わう



名古屋名物のうなぎのひつまぶしをアレンジした岐阜県産の「飛騨牛サーロインまぶし」は人気メニュー。ぜひご賞味あれ。



## 養老SA

【名神高速道路・下り】

春は満開の桜が楽しめる養老SAは屋根付きのテラスや東屋があり、遊歩道のある小さな緑地が旅の疲れを癒してくれます。フードコートメニューはバラエティ豊かで何を食べるか迷うほど。岐阜県美しい山と川に囲まれた町、養老町で作られた美味しいアップルパイも大人気。



## 有磯海SA

【北陸自動車道・下り】

有磯海SAは高台に位置し景観が自慢です。もちろん天然のいけすと言われる富山湾産の新鮮な魚を楽しめますが、実は人気メニューのひとつが牛サーロインステーキポウル。長時間のドライブの後、ぜひ試していただきたい逸品です。

富山湾の幸と絶品  
ステーキポウル



富山発祥のブラックラーメンは、全国区の人気を誇りますが、富山名物の白エビで贅沢にダシを取った塩ラーメンとの詰め合わせは人気のお土産。麺屋いろはが販売する4食セットは1580円(税込)。





レストランで、お土産で  
パンダに癒されるSA



# 紀ノ川SA

【阪和自動車道・下り】

7頭のジャイアントパンダが暮らす南紀白浜アドベンチャーワールドまで、クルマで1時間半ほどの距離にある紀ノ川SA。阪和道で和歌山県に入つてすぐのところあり、施設西側にある「森の庭」と名づけられた展望台からの夜景は、和歌山市の街の灯りが幻想的で、夜景100選にも選ばれています。さまざまなグルメやお土産がありますが、目を引くのはやはりパンダです。阪和自動車道はパンダ自動車道とも呼ばれ、SA内にもぬいぐるみからお土産まで、あちこちにパンダが。もちろんパンダ以外にも和歌山特産の南高梅や和歌山ラーメンなどが訪れる方々を楽しませてくれます。

## TOPICS

食べるのがかわいそうなくらい、かわいいパンダソフト。ソフトクリームの上にチョコのパンダが載っていて、容器にもいろいろなポーズのパンダたちが。フードコートで売っています。500円(税込)。



南紀白浜アドベンチャーワールドは、サファリワールドや水族館もあるテーマパークです。





# ドライバーの オアシス

10選



## 津田の松原SA

[高松自動車道・下り]

四国・香川県の玄関口が津田の松原SA。「さぬきうどんバーガー」は、さすが「うどん県」発のご当地グルメ。土日祝日限定発売で売り切れ次第販売終了。うどんを食べているかのような食感をぜひ味わってください。



エリア内には広い緑地があり、ドライブのリフレッシュに最適。東四国のグルメやお土産がそろったSAです。

さすがうどん県  
ご土地グルメはうどんバーガー



「沖縄ならでは」を楽しむ  
オーシャンビュウを満喫

沖縄らしさがいっぱい  
の伊芸SAの  
人気メニューの  
ひとつが豆腐  
チャンプルー。  
こちらは  
下り線だけでなく  
上り線でも食べる  
ことができます。



## 伊芸SA

[沖縄自動車道・下り]

伊芸SAの魅力は、さまざまな「沖縄ならでは」を楽しむことです。食もお土産もちろんですが、全席オーシャンビュウのレストランから見える海の青さは感激もの。平安座島、宮城島、伊計島が一望できる展望台からの絶景も楽しめます。



## 七塚原SA

[中国自動車道・下り]

七塚原SAは中国道で岡山県から広島県に入って最初のサービスエリア。県北を横断する中国道なので、広島だけでなく岡山や山陰の名産品も勢ぞろい。写真は愛らしい形と味が人気の焼きまんじゅう「因幡の白うさぎ」。



最大級の  
ドッグラン



SAの周辺にはのどかな風景が広がります。近くには国営備北丘陵公園があり、四季折々の花が楽しめます。



## 桜島SA

[九州自動車道・上り]

桜島SAは九州自動車道最南端のSA。鹿児島県の魅力を発信するこのSAからは、毎日のように噴火を繰り返す雄大な桜島を目の前に見ることができます。鹿児島はおいしいものがいっぱい。グルメもお土産もどれを選んでもはずれはなし？

雄大な桜島が  
元気をくれる

人気のお土産「薩摩芋タルト」。名君・島津斉彬が食べたらきっと、満足しただろうと作られた銘菓です。



# eCanterから始まる三菱ふそうの カーボンニュートラルへの取り組み

日本は2050年までにカーボンニュートラルの実現を宣言した。カーボンニュートラルは温暖化の原因とされる温室効果ガスの排出量から、植林、森林管理などによる吸収量を差し引いて実質的にゼロにすること。三菱ふそうは国内初の量産型電気小型トラック「eCanter」によりカーボンニュートラルへの貢献を目指している。



人や生命体に大きな影響を  
与える気候変動のリスクとは

気候変動問題は地球規模の課題として多くの人々が共有するようになった。2015年のパリ協定では世界共通の長期目標として、世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べ2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること(2℃目標)、今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡を達成することなどで合意した。気候変動は気温の上昇、海水温の上昇、北極海の海水域面積の減少を招いている。このままていくと、極端に暑い日の増加、大雨の頻度や強度の増加、かつてない高い潮位の発生など、人を含む生命体に大きな影響を与える可能性が高い。気候変動の進行を少しでも緩和するためには今すぐ行動を起こす必要があるのだ。

カーボンニュートラル社会の  
実現に貢献するEV

国土交通省によると、2019年度における日本の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量(約11億800万トン)のうち、運輸部門



からの排出量(2億600万トン)は18.6%を占めている。そのため運輸部門の排出削減は日本のカーボンニュートラルの実現にとって大きな力となる。そこで実用化の進む電気自動車(EV)の普及に期待が集まっている。三菱ふそうの「eCanter」は国内でEVトラックの先頭を走っていて、2017年の発売開始以来、全世界で300台以上が導入され、400万kmを超える走行実績を積み上げてきている。環境意識の高い企業が導入を決断するだけでなく、環境問題に強い関心を持つ欧州など海外の取引先から商品の配送にeCanterを導入するよう求められるケースもあるという。今後もこうした流れは続いていくと考えられる。

# Carbon neutral

## eCanter 導入のための 充実したサポート

しかし、一方でeCanterの導入のハードルが高いと感じている企業があることも確かだ。

顧客が導入をためらう原因のひとつに、現行のトラックと比べた場合の購入時のコストの高さがある。三菱ふそうでは具体的なデータを顧客に示しながら説明することで導入へのハードルを低くしている。

さらにeCanterに搭載される「トラックコネクト」がCO<sub>2</sub>の削減量を見える化して知らせるなどを説明し、環境意識の高い顧客の共感を得ること



もできるという。

環境省はEVトラックなどの導入に必要な経費の一部を補助しているが、三菱ふそうは制度をしっかりと理解した上で、最適な購入計画もサポートしている。また、魅力的な月額でフルメンテナンスのサービスも付与したりリース商品を用意するなど、購入コストや日々の運用についてのさまざまな課題への対応を用意している。

その他、三菱ふそうはeCanterにフィットした毎日のルートの提案から、充電インフラの構築までのコンサルティング対応などで、総合的に顧客の環境問題への取り組みを支援している。



## 環境対応型電力導入で オリックスと業務提携

カーボンニュートラルに向けた三菱ふそうの取り組みは、eCanter導入サポートだけにとどまらない。

三菱ふそうは、2021年12月27日、環境配慮型電力の小売事業でオリックスと業務提携を行ったことを発表した。eCanterの顧客にオリックスの環境配慮型電力を提案していくというのだ。オリックスは、小売電気事業者として、2009年に電力小売事業を開始したが、同社の提供する環境対応型電力メニューは、CO<sub>2</sub>排出量削減、再生可能エネルギー由来電力導入の促進をサポートするものとなっている。CO<sub>2</sub>排出量の削減については、顧客は排出量によって5段階のメニューが選択可能で

自社で設定したCO<sub>2</sub>排出量削減目標や、地球温暖化対策の推進に関する法律の目標達成に役立てることが可能となる。また、非化石証書付き再生エネルギーを提供し、サービスを利用する企業は自らの事業の使用電力を100%再生エネで賄うことを目指す国際的なイニシアティブ「RE100」や、再生エネ100宣言「RE Action」への報告に使用

することができる。



2039年までに国内の新型車両を全てカーボンニュートラルで走行するモデルとするという目標を掲げる三菱ふそうは、eCanterを含めたeモビリティへの転換を後押しするため、eモビリティの運用・普及のための一連のサイクルを包括する「エコシステム」の構築を推進している。今回の提携もそれに沿ったものだ。eCanterというゼロエミッション車両と環境配慮型電力を同時に提案することで、顧客の環境問題への取り組みを支援し、物流業界などの脱炭素化の加速に貢献していきたいと考えているのだ。

eCanterから始まる三菱ふそうの取り組みに今後とも期待していきたい。

# eCarterを体験できる カスタマーエクスペリエンスセンター

今、騒音や排出ガス、CO<sub>2</sub>の低減などは都市が抱える大きな課題となっている。そうした課題の解決に貢献するものとして、三菱ふそうが販売しているのが国内初の量産型電気小型トラック「eCarter」だ。三菱ふそうでは、eCarterの導入を検討している顧客などに質の高い経験を提供する施設として、神奈川県川崎市中原区にある本社内に「カスタマーエクスペリエンスセンター」を開設した。

## 価値の高い体験で eモビリティを体験

2017年に発売されたeCarterは、国内初の量産型電気小型トラックで、車両総重量7.5トンクラス、急速充電では最大約1.5時間、普通充電では最大約11時間の充電で、約100kmの航続距離を確保している。2017年の発売以来、日本をはじめ世界の16カ国で稼働し、高い信頼性も実証されている。eCarterはCO<sub>2</sub>や汚染物質を排出しないゼロ・エミッション輸送や騒音問題の解決を可能にし、2020年8月には安全装備を拡充した新型モデルを発売したほか、車両ラインアップの拡充を含む次世代モデルの開発にも取り組んでいる。

三菱ふそうが川崎市の本社内に開設したカスタマーエクスペリエンスセンターは、顧客に対してEV（電気自動車）やEVトラックなどを利用する「eモビリティ」、そしてその運用をサポートする充電インフラやバッテリーマネジメントなどに関する

### 01 TOPIC 提供するの6つの経験

カスタマーエクスペリエンスセンターに訪れた顧客には下記の体験が用意されている。

#### 技術体験

eCarterやFCV（燃料電池自動車）の車両スペックの説明。また、ダイムラートラックグループの取り組みや、グループとしてのメリットなどが紹介される。

#### 商品体験

先進的なEVトラックであるeCarterの実車に触れて、実車を用いた説明と試乗が体験できる。また、導入にあたってのファイナンシャルサービスやオートリースなど、顧客をサポートする金融商品も紹介する。

#### エコシステム・デジタル体験

バッテリーマネジメントの説明や、車両モニタリング、自動配送ルート検索など運行状態をリアルタイムで管理するコネクテッドソリューションなどを紹介する。

#### 充電インフラ体験

充電器の商品説明や実際に充電が体験できるほか、充電のコンサルテーションも行う。また、オプションで以下のものも体験できる。

#### クオリティラボ体験

三菱ふそうの車両品質の説明に加え、高水準の製品品質を保つために、最新の品質管理・検査機器を用いて高度な分析や計測を行う品質マネジメント施設であるクオリティラボを紹介。

#### 工場体験

本社内にある川崎製作所でeCarterの組み立てラインなど三菱ふそうの先進的な生産ラインの見学ができる。



ソリューションについて、eCarterの実車の試乗体験やそれぞれの専門家からのプレゼンテーションなどにより、質の高い経験がエクスペリエンスを得られる施設だ。訪れた人は中央に置かれたeCarterを目の前にして、プレゼンテーションを受け、eCarterに実際に触ったり、試乗したりして、三菱ふそうのeモビリティの取り組みを知ることができる。

脱炭素化に向けた大規模な変革の時代が到来する中で、三菱ふそうがカスタマーエクスペリエンスセンターで提供しているものは、eモビリティ分野のバイオニアとし



てeCarterの発売からの4年間で蓄積した知見と専門性をベースにしたものだ。

## eCarter導入検討の顧客などを受け入れ

三菱ふそうでは、カスタマーエクスペリエンスセンターでの体験参加に随時対応している。対象となるのは、eCarterの導入を検討されている顧客が中心で、川崎市にある本社まで来てもらえる人を幅広く受け入れている。

カスタマーエクスペリエンスセンター内



カスタマーエクスペリエンスセンター内のeCarter。実車を用いて説明する。

でのプレゼンテーションおよびeCarter試乗の所要時間は2時間程度だが、オプションとして用意している、本社敷地内にある川崎製作所の見学などを合わせたスケジュールを組み立てると半日程度の日程になる。

カスタマーエクスペリエンスセンターは、eCarterの実車を実際に確認してもらうだけでなく、eCarterの購入から運用までを含む統合的なサポートサービスを紹介する場として本社に設置されたものだ。



カスタマーエクスペリエンスセンターでのプレゼンテーションは、eCarterの実車を真ん中に置いて行われる。



## 02 TOPIC

### カーボンニュートラル達成に 貢献する三菱ふそう

カーボンニュートラル、脱炭素に向けた取り組みが企業に強く求められているが、輸送業界もちろん例外ではない。世界中のCO<sub>2</sub>排出量のおよそ4分の1は自動車などの交通手段からだと指摘されていて、EVやEVトラックなどを利用するeモビリティはそうした課題を解決するものとして注目を集めているのだ。

三菱ふそうのカスタマーエクスペリエンスセンターは、決して顧客のeモビリティ導入にあたっての懸念を取り除くためだけのものではなく、日本政府が掲げる2050年までのカーボンニュートラル達成という目標に貢献することを目指し、ダイムラー・トラック・アジアが掲げる「人と地球に、より良い生活と環境を実現する」というビジョンに基づくものなのである。



# 置き配は定着するのか 海外の置き配事情と日本の状況

## 置き配は日本でも進んでいる？

宅配事業者、トラックドライバーの悩みは、受け取る生活者の不在による再配達です。国土交通省の調査によると、2021年10月の宅配便再配達率は1年前と比べて約0.5%増加し、約11.9%となっています。電子商取引（EC）の急速な拡大で、宅配便の取り扱い個数が増加する一方で、宅配便の再配達はCO<sub>2</sub>排出量の増加やドライバー不足を深刻化させるなど、

重大な社会問題の一つとなっています。

再配送を防ぐためには、受け取る側が時間帯指定を活用することや、コンビニでの受け取りを指定する、あるいは宅配ボックスの利用や新設するなどの方法が考えられますが、ここに至り置き場所を指定する「置き配」が注目されるようになってきました。

対応するECサイトや配送業者も増えていますが、置き配は日本で定着するのでしょうか？

## OVERSEAS

### 海外でも置き配の流れは加速

アメリカでは、置き配されたものの盗難が社会問題に。その対策としてアマゾンが専用の宅配ボックスを導入するなど、大都市を中心に対応が進んでいます。すでに7割超の人が自宅ではない場所で荷物を受け取っているとされ、ドラッグストアなどで荷物を受け取るサービスも拡大しています。

中国では、希望する利用者に対して、商品を手渡しではなく指定された場所に置く「非接触配送」が急増中。行政もその推進を後押ししています。

新型コロナウイルスの感染拡大でECの利用が増えるのは世界的な潮流です。そうした中でさまざまな課題はありながらも、盗難や再配達を防ぐ、置き配を含む対応策は各地で加速しています。



## 置き配のメリットとデメリット

置き配にはメリットとデメリットがあります。

メリットは、在宅している場合でも、非対面で荷物を受け取ることができることや、不在時でも確実に受け取りができることがあげられます。場所も玄関ドア前、宅配ボックス、ガスメーターボックスなどを指定できることが一般的です。

デメリットは、盗難されるリスクがあること。さらに、荷物が汚れたり破損することも考えられます。また他人の荷物が届いたり、荷物が他に配達されるなど、対面であれば避けられるトラブルの可能性もあります。

そうした中で、損害保険にも動きがあります。大手損害保険会社が、運送事業者向けに置き配保険の販売を開始しました。また、大手配送会社も荷物が盗難にあったときに補償する置き配保険を導入したり、盗難で商品が届かなかった場合、全額保証をするなどリスクに対応する動きも活発になっています。

普及が進む宅配ボックスや、対応が困難とされていたオートロックマンションでのスマートロックやアプリの活用で置き配が可能になるなどの動きも急です。アマゾンが置き配を配送の初期設定にするなどの取り組みを始めている中、置き配はさらに増えていく可能性があります。

### 日本の大手事業者の動き

日本で事業を展開する米大手通販会社は置き配の対象エリアでは、玄関への置き配を初期設定としています。日本の配送事業者もあらかじめ指定した場所に置き配するサービスを行っています。

また、こうした動きに対抗するため、受取人が指定する場所に荷物を届けるサービスを開始したり、連携するオンラインショップで購入した荷物に限り、置き配サービスを行うところも出てきました。

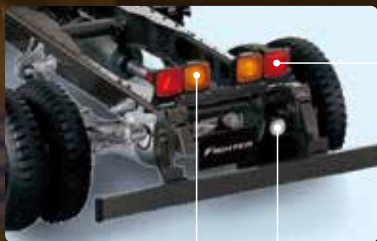
このように多くの大手事業者が置き配に対応しています。もちろん関係する事業者の置き配のリスクを取り除く取り組みは大切ですが、その普及は配送に関わる人の負担軽減につながる事が期待されています。



# 長期使用車両の 灯火装置の点検について

10年を超える長期使用の車両では、結露などでランプ内に水が浸入してショートし、最悪の場合、発煙・発火に至ります。また、飛び石によるレンズの破損やバルブ交換時のソケットの閉め忘れ、ゴムパッキンの劣化や噛みこみなどによっても水が浸入する可能性があります。そのため灯火装置の定期的な点検をお願いします。劣化や破損等が認められた場合は交換をしてください。なお、レンズ部に著しい汚損等が確認されるものについては特に注意をお願いします。

## 灯火装置の位置と名称 (写真は'04年型ファイター)



リヤ方向指示灯 後退灯

ストップ/  
テールランプ

ヘッドランプ

フォグランプ

フロント方向指示灯  
コーナリングランプ

フロントサイド  
方向指示灯



## レンズ部の曇りの状況



フロント方向指示灯の曇り

## ソケットの腐食状況とバルブの曇り状況



ソケットの腐食



バルブの曇り

## 不具合事例



## ランプ類の日常(運行前)点検について

- 運転席の各スイッチを作動させ、各ランプの点検、点滅状態を点検します。
- ブレーキペダルを踏み込んで、ストップランプが点灯するか確認します。
- ギヤを後退にしたとき、後退灯が点灯するか確認します。
- 各ランプ類のレンズの汚れや損傷がないか点検します。
- 点検で点灯や点滅しないときは球切れやヒューズ切れが考えられます。不具合部品を交換してください。
- 不具合部品を交換しても点灯や点滅しないときは、お近くの三菱ふそうサービス工場でご点検をお受けください。

## 注意!

- ※バルブは必ず規定の物(電圧、ワット数)を使用してください。
- ※バルブの交換を行うときは必ずスタータースイッチを"LOCK"、各スイッチを"OFF"にしてから行ってください。

※車種・モデルにより点検方法が異なります。詳しくは各車両の取扱説明書を確認の上、忘れずに日常点検・交換を行ってください。(掲載している内容は中型トラックを例として掲載しています。)

点検・整備についてご不明点などございましたら、お近くの三菱ふそうサービス工場にお問い合わせください。



# 持続可能な社会の実現へ クリーンなエネルギーや 歴史ある城と出会う

青空の下、世界文化遺産の姫路城の前を走るeCanter。持続可能な未来の実現は、文化遺産を未来に残すことにもつながります。



eCanterが走るのは郡山布引高原風力発電所。周辺は名産・布引大根の産地で、農業との共生を営んでいます。

国内初の量産型電気小型トラック・eCanterは、騒音がなく低振動。さらに力強い走りはEVのイメージを大きく変えました。持続可能な社会の実現へ、きょうもeCanterは走り続けています。

## 福島県・郡山 風車の並ぶ高原を走る

日本国内で4番目の大きさを誇る湖が福島県の会津若松市、郡山市、猪苗代町にまたがる猪苗代湖です。その猪苗代湖の南に位置する標高約1000メートルの郡山布引（ぬのひき）風の高原。高原の頂上からは磐梯山や猪苗代湖が一望できます。100メートルほどの高さがある風力発電用の33基の風車の姿は圧巻で、eCanterはクリーンなエネルギーを創り出す風車の周辺を走りました。風車の周りはお花畑。春は菜の花、夏はひまわり、秋はコスモスと季節によって見える花が違うのも魅力で多くの観光客が訪れます。

なお、12月から4月下旬の冬期間中は道路通行止めとなり、高原頂上へは行けないのでご注意ください。

## 兵庫県・姫路 世界遺産、白鷺城と eCanter

奈良の法隆寺とともに日本で初の世界文化遺産となったのが兵庫県姫路



市にある姫路城。青空の下でシラサギが水から飛び出し羽を広げて舞っているように見えることから、白鷺城とも言われています。鮮やかな白の城壁が印象的な姫路城の大手守は1609（慶長14）に建築されたもので、大手守と3つの小天守が渡櫓（わたりやぐら）でつながる連立式天守が特徴です。

多くの城が戦災などにあい焼失しましたが、姫路城は400年以上の歴史のなかで無傷だったため、貴重な文化遺産となっています。

歴史ある姫路城ですが、新たな時代への対応としてスマホにアプリをダウンロードすることで楽しめる姫路城ARを見学ツールとして準備しています。チャレンジ精神にも富むのはeCanterも同じですね。



# FUSO information

## ダイムラートラック社が フランクフルト証券取引所に上場

三菱ふそうの主要株主で親会社であるダイムラートラック社が、ドイツ・フランクフルト証券取引所に2021年12月10日に上場しました。同社は同年10月に旧ダイムラー社から分離しており、このたびの上場によって企業としての独立を果たしたことになります。同社は上場・独立が安定した事業活動につながると考え、カーボンニュートラルな輸送が求められる時代に商用車業界をけん引するべく投資を継続しています。三菱ふそうはダイムラートラック社の目標に沿って2039年までに日本と欧州、北米における新車を全てカーボンニュートラル対応とし、燃料電池車両の2020年代後半の量産化を目指しています。



「世界を動かす、すべての人のために」働く、ダイムラートラックの車両たち

## 「eCanter SILENT NIGHT」に 藤原紀香さんが登場

三菱ふそうは2021年12月20日、「eCanter SILENT NIGHT」を東京で開催。新しいブランドスローガン「Future Together」の認知度向上を目的に行われたのは、国内初の量産型電気小型トラックeCanterを通じて地球の未来を子どもたちと考えるイベント。ゲストとして招かれた女優の藤原紀香さんはトークショーの後で、参加した子どもたちにクリスマスプレゼントを渡しました。藤原さんは1998年に三菱ふそうのCMに出演してからトラックドライバーに声をかけられるようになり、トラックが大好きになったと笑顔で話しました。



## eCanterがテレビ番組で紹介されました

国内初の量産型電気小型トラックeCanterが「お仕事search! それってグッジョブ」(テレビ東京 2月23日 25:40～出演:かまいたち)、「チャント!」(CBCテレビ 2月10日15:49～)、「キニナリーノ」(朝日放送 1月28日 10:25～)の3つの番組で紹介されました。「お仕事search! それってグッジョブ」では、川崎本社工場テストコースで番組スタッフの方に実際に乗車していただき、静粛性に高い評価をいただきました。また、「チャント!」「キニナリーノ」ではeCanterの近距離輸送に適した優れた走行性、経済性、クリーン性などがわかりやすく伝えられました。



### eCanter が紹介された 3つのテレビ番組収録風景

横:「お仕事search!それってグッジョブ」  
(テレビ東京)

左下:「キニナリーノ」(朝日放送)

右下:「チャント!」(CBCテレビ)



4月3日 | 1911 [明治44年]

日本橋に19代目の橋が架けられる

東京・中央区の日本橋川に架かる日本橋は1601(慶長6)年、江戸幕府により東海道、甲州街道、奥州街道、日光街道、中山道という重要な街道の起点として定められました。現在も日本橋には日本国道路元標が埋め込まれていて、7つの幹線国道の起点となっています。

初代の日本橋は1603(慶長8)年に徳川家康により架けられた木製の橋だったと言われています。火事と喧嘩は江戸の花と言われるように、江戸は火事が多く、明治維新までに10度の消失があったと伝えられています。1911(明治44)年4月3日に、現存するルネッサンス様式の二連アーチの花崗岩でできた橋が19代目として架けられ(20代目という説

もあるようです)、開通式が行われました。全長は49メートル、幅は27.3メートルの日本橋ですが、1945(昭和20)年3月10日の東京大空襲により、今でも欄干にはところどころに焼夷弾による焦げ跡が残るなど、歴史をくぐりぬけてきました。1964年の東京五輪の際に建設された首都高速道路がその歴史的建造物の上を覆うように走っているため景観を損ねるという声がありましたが、2040年の開通を目指して、首都高速道路日本橋区間地下化事業が始まっています。

今も、日本の交通の要衝地である日本橋は、どのように生まれ変わっていくのでしょうか？



歌川広重

4月19日 | 1800 [寛政12年]

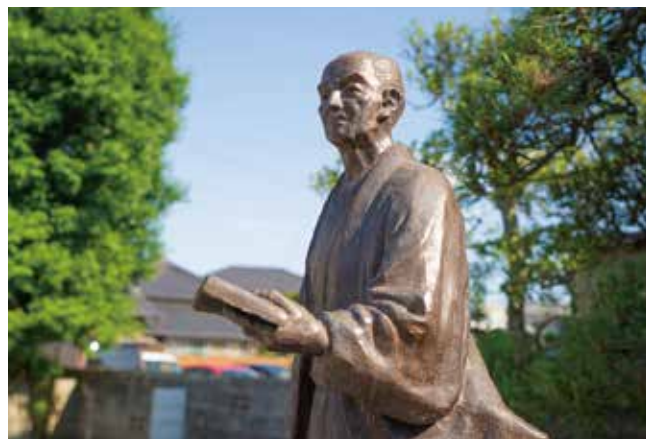
伊能忠敬が測量のため蝦夷地に出発

伊能忠敬は、江戸時代に実測による日本地図を作った人です。千葉県佐倉で家業のかたわら、天体の運行を観測し暦を作る暦学を独学していた忠敬は、隠居が認められ江戸に移り住みました。天文学者の高橋至時の下で5年間、本格的に学んだ後、蝦夷地(北海道)の測量に出発したのです。その時忠敬は55歳。第二の人生で新たな道を究める旅に出たのです。

当時は蝦夷地に行くには幕府の許可が必要でしたが、蝦夷地にはロシアなどの外国船が現れるようになり、正確な地形の把握に迫られていた幕府の支援も受けての出発でした。

蝦夷地の測量が終了した後に提出した地図が幕府に評価され、測量する地域は次々に拡大。忠敬は幕臣に取り立てられ、1805(文化2)年からの測量は幕府の直轄事業となりました。終盤の測量には高齢のため測量に同行できなくなった忠敬ですが、人手も増え、17年をかけた全国測量は完了。地図の最終的な完成は1821(文政4)年でした。忠敬はその3年前に亡くなりましたが、現在、私たちが使っている日本地図の元は忠敬によって作られたものだと言っていいでしょう。

その地図は極めて正確なもので、日本の開国後に、当時、地図に関しては最高水準の技術を持っていた英国海軍が、忠敬が作った地図を見て作成を断念したと言われるほどの出来栄でした。



# COFFEE BREAK

オフィスで  
注目を集める  
今どきの  
ステーショナリー



オフィスで活躍するステーショナリー(文房具)は、デザインも使い勝手もどんどん進化しています。修正テープによく似た「テープのり」は手を汚すことがなく、軽い力で綴じることができるパワーホッチキスも売れ行きが好調だとか。おしゃれなデザインも注目されていてノート、ハサミ、クリップなど身近なステーショナリーにも機能性はもちろんデザインも洗練されているものが増えています。関連メーカーではSNS映えを意識したものも数多く開発、大きな話題になるものもあり、マーケットを活性化させています。

## 進むステーショナリーのデジタル化 電子ノートが人気に

ビジネスに直結するものでは、デジタル化も進んでいます。手で書いた内容を自動でデータ化することができる電子ノートはさまざまなメーカーから発売されていますが、専用のノート以外にも書き込むことができ、内部メモリに100ページ分のノートが保存できるものが人気となっています。

こうしたステーショナリーは、オフィスの隠れた主役と言えるかもしれません。

# PRESENT

アンケートにご協力いただいた方に、  
FUSOオリジナルグッズをプレゼント!



②エコバック  
5名



③スタンドワイヤレス  
チャージャー  
携帯充電器  
5名



①メモ帳&ボールペンセット 20セット

応募締め切り

**4月30日(土)** 当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。(発送は5月中旬を予定)

応募方法

プレゼントご希望の方は、下記の方法よりご応募ください。

PCから

<http://tiny.cc/oulouz>

スマートフォンから



※ご記入いただきました内容は、「FUSO magazine」誌面充実のためにのみ、利用させていただき、ご本人の同意なく、個人情報を第三者に開示することはいたしません。個人情報に関するお取り扱いにつきましては、三菱ふそうトラック・バスのホームページをご覧ください。

トラックが変われば、街が変わる。

# We Can Be Better.

いまを走るのに、ふさわしいトラックとは。

排気ガスのない、クリーンな走り。

騒音もなく、ひとの営みに寄りそう。

低振動で、ドライバーにもうれしい。



国内初量産型電気小型トラック

2017年の発売以来eCanterは日本をはじめ  
世界中のさまざまな輸送現場で活躍中。

## eCANTER

トラック・バスのお問い合わせは、三菱ふそう販売店へ



三菱ふそう  
公式アカウント



スマホのカメラでQRコードを読み込むだけ！

三菱ふそうトラック・バス株式会社

[www.mitsubishi-fuso.com](http://www.mitsubishi-fuso.com)